

いつ起きるか分からない

災害への備えを！



国が制定した「避難勧告に関するガイドライン」の改定に伴い、これまで市が発令していた避難勧告等に、警戒レベル（レベル1〜5）を新たに設定することにより、避難の必要性を分かりやすいものとする取り組みが始まります。

市民の皆さん一人ひとりが正しい防災知識を身に付け、普段から災害への備えを進めておくことで多くの命が救われることが、これまでに全国各地で発生した災害から明らかになっています。

市民の皆さんは、「自助の意識」を高めていただき、被害を最小限に抑えるための取り組みを今から始めておきましょう。

命を守るために

- 自宅と周辺地域の危険性をハザードマップ等により確認する。
- 気象情報に注意して、状況を先読みして早めの行動をとる。
- 避難準備（高齢者等避難開始、避難勧告や避難指示（緊急）の避難情報に従う。
- 自分で、避難開始のタイミングと判断基準を決めておく。

避難時期を決めるためにタイムラインを作成してみる。

下の表は、台風・大雨時等のタイムラインの一例です。タイムラインを作成して避難するタイミングを決定するための判断基準をしっかりと自分で決めておきましょう。例えば、自宅用を作成するのであれば、自宅近くの川や用水路の水位・水量、土砂災害が起きそうな場所ならば前兆現象を判断基準にする等で独自のタイムラインを作成できます。

前兆現象の例

落石・水の染み出し



流木の混入



水の噴出



警戒レベルと避難情報

警戒レベル (洪水・土砂災害)	皆さんがとるべき行動	皆さんに 行動を促す情報
警戒 レベル1	テレビやインターネット等が発信する、最新の防災気象情報に注意するなど、災害への心構えを高める。	警報級の可能性 (気象庁が発表)
警戒 レベル2	ハザードマップ等により災害リスク、避難場所や避難経路、避難のタイミング等の再確認、避難情報の把握手段などの再確認・注意など、避難に備えた自らの避難行動を確認する。	注意報 (気象庁が発表)
警戒 レベル3	避難に時間のかかる高齢者等の要配慮者は立ち退き避難する。その他の人は立ち退き避難の準備をし、自発的に避難する。	市町村が発表 避難準備・ 高齢者等避難開始
警戒 レベル4	<ul style="list-style-type: none"> 指定緊急避難場所等への避難を基本とする避難行動をとる。 災害が発生する恐れが極めて高い状況等で、指定緊急避難場所への立ち退き避難はかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合には、近隣の安全な場所への避難や建物内のより安全な部屋へ移動するなど緊急の避難行動をとる。 	避難勧告 避難指示(緊急)※ ※地域の実情に応じて緊急的または重ねて避難を促す場合に発令
警戒 レベル5	すでに災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をする。	災害発生情報※ ※災害が発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令

危険度および緊急度が高い

